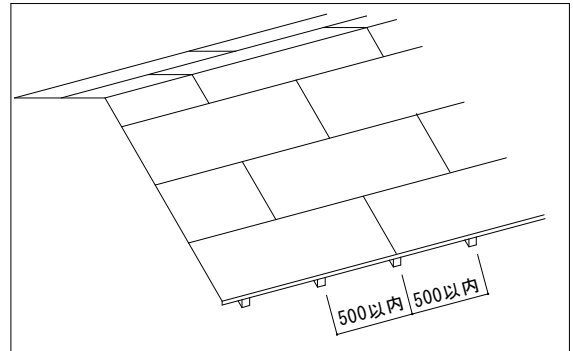


1. 屋根材の標準施工方法

<1>野地板の施工

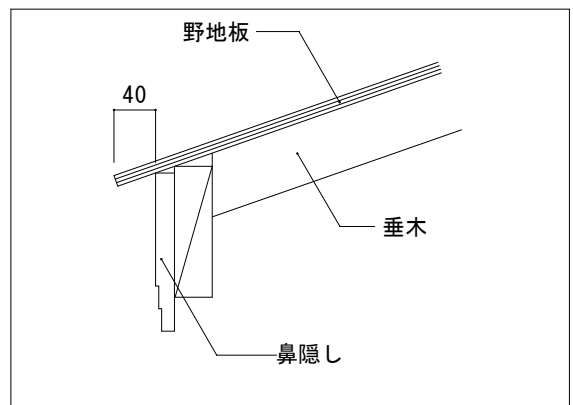
<1-1>平場部

- (1) 屋根の最も重要な構成要素は野地(野地板)です、野地の種類、品質、厚み等、建築法規に適合した材料を使用してください。「飛び火試験」の仕様がありますので、厚さ12mm以上の合板又はOSBを使用して下さい。
- (2) 野地板は、屋根材の重量、屋根の施工者や雪の荷重等で破壊、変形、歪みが生じ無い物を選び、たわみや不陸釘の浮き等がないように施工して下さい。
- (3) 屋根の勾配は、最低3.5寸以上として下さい
- (4) 屋根の勾配が低勾配(2.5寸~3.5寸未満)の場合は条件によって異なりますので、各代理店までお問い合わせください。



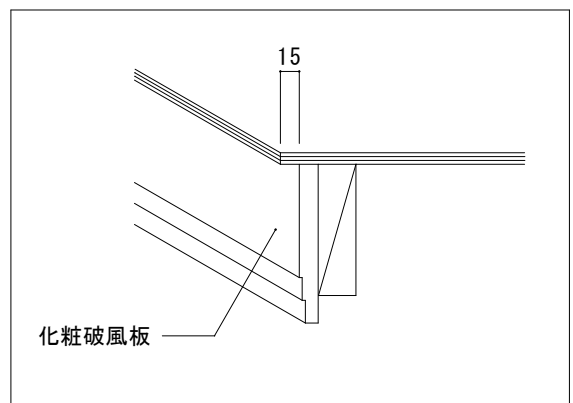
<1-2>軒先部

- (1) 野地板の先端が、仕上材(鼻隠し)より40mm程度出ていることを確認して下さい。
- (2) その際、軒通との位置関係を確認して下さい。



<1-3>ケラバ部

- 野地板が仕上げ材(破風)より15mm程度出ていることを確認して下さい。
(仕上げ材(破風)の汚れ防止のため)

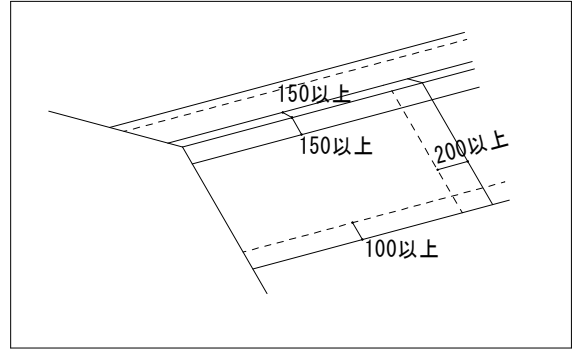


2. 防水紙の施工 (勾配3.5寸以上)

防水紙はアスファルト ルーフィング #940(22Kg) 以上の物を使用しますが、
すが漏れ防止の為、寒冷地ではライナー等の改質アスファルト ルーフィング(ゴムアス) 等を
下葺材とします(詳しくは各代理店まで)。以下はアスファルト ルーフィング #940での施工例です。

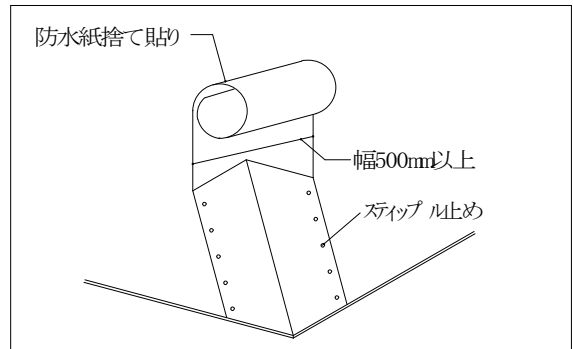
<2-1>棟 部

- (1) 棟の防水紙は頂上から両側に150mm以上重なるように敷きます
又、平部の上下の重なりは、100mm以上、水平方向の重なりは
200mm以上としてください。

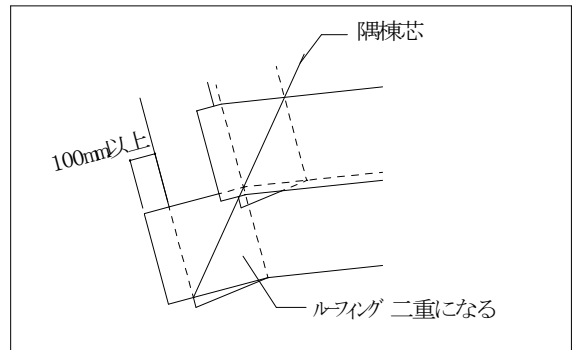


<2-2>隅棟部

- (1) 巾500mm以上の防水紙を隅棟部分に捨て貼りします、
スティップルで十分に下地に止めて下さい。

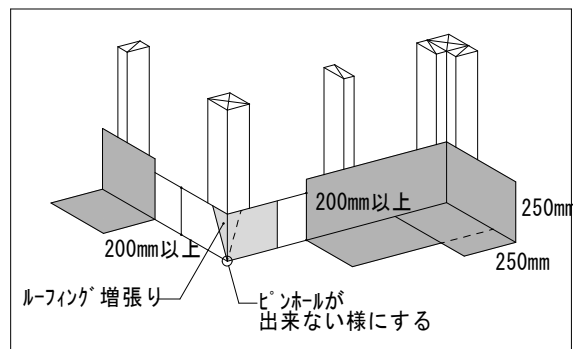


- (2) 防水紙は隅棟部分で継がず、片側300mm以上かぶせ
十分に下地に止めて下さい。



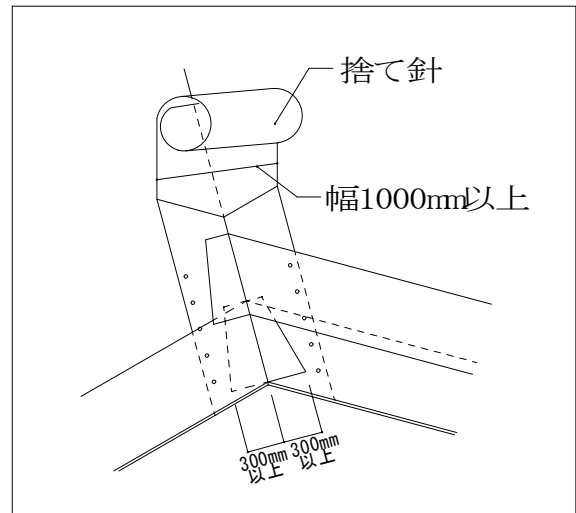
<2-3>壁取り 合い部

- (1) 屋根と壁との取り 合いの立上がりは、
屋根面より200mm以上立ち上げて敷きます、
壁面に面材が無い場合は増し貼りをします。



〈2-4〉 谷 部

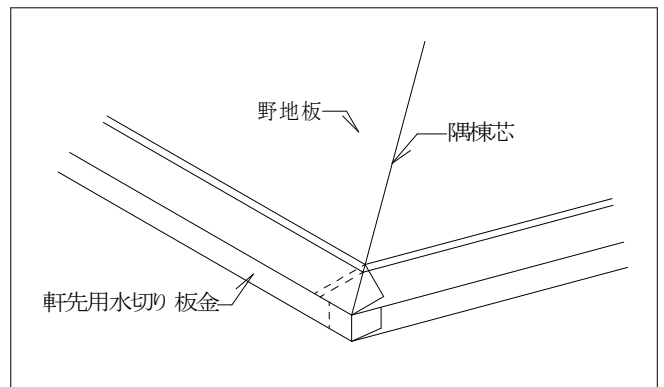
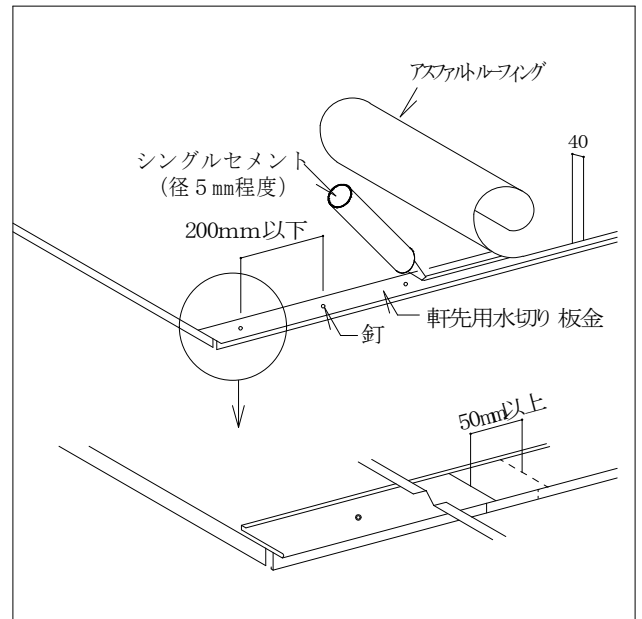
- (1) アスファルトルーフィングの中心が谷のセンターに来るように下葺きします。
- (2) 谷の下地は、シングルを施工するまで吹き飛ばされないようスティップル又は釘でとめます。
- (3) 両側からのルーフィングは谷を超えて300mm以上重なる位置でカットします、その谷の板金やシングルで最終的に完成されます



3 板金の施工

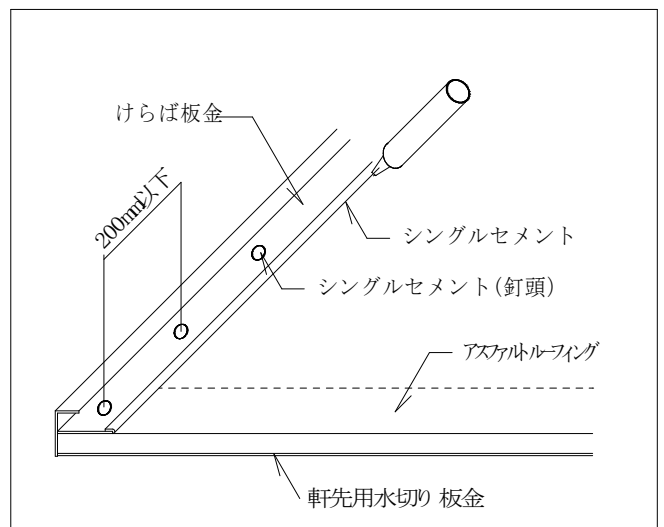
<3-1>軒先部

- (1) 防水紙を張る前に軒先用水切り板金を釘で取付けます。
釘の間隔は200mm以下で止め、重なりは50mm以上とします。
釘頭はシングルセメントでシールします。
- (2) 防水紙(アスファルトルーフィング又は同等品)を野地板に水平方向に敷きます。
- (3) アスファルトルーフィングは軒先水切の先端から40mm離して敷きます。
- (4) 釘の位置は軒先より40~50mm程度を目安としますが下地に合せ調整して下さい。
- (5) 隅棟部では、一方の軒先を隅棟芯の反対側までかぶせます。
もう一方の軒先水切も同様に反対側までかぶせます。



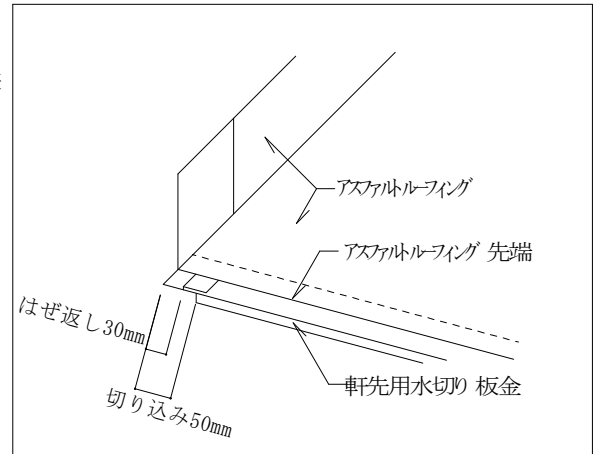
<3-2>けらば部

- (1) けらば部では軒先水を切取付、その上にアスファルトルーフィング、けらば板金の順になるように施工します。
水切り板金は200mm以下の間隔で釘止めします。
- (2) 釘頭及びけらば板金の端部はシングルセメントでシールします。

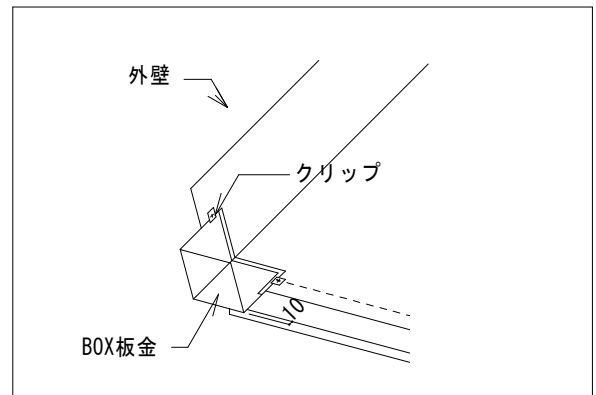


<3-3>軒止り 壁取り 合い部

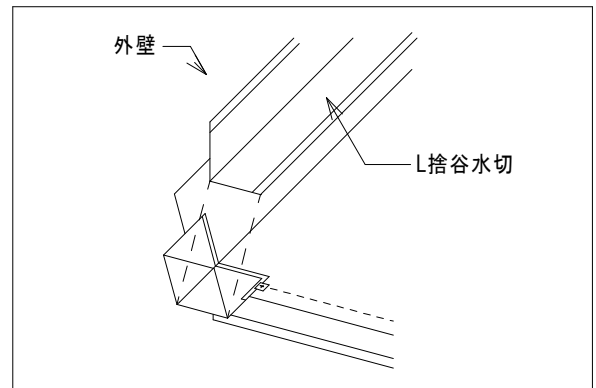
- (1) 壁面に防水紙を捨て張りします。立ち上がりは、屋根面より200mm以上立ち上げます、軒先水切の下端から約50mmの位置に水が伝わらない様切り込みをいれます。また壁面から30mm程度の位置に軒先水切端部上面を切斷しはぜ返しを付けます。



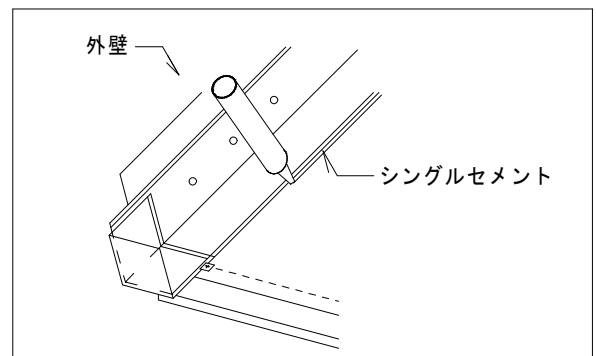
- (2) BOX板金は軒先水切から10mm出した位置から取り付けますクリップで2箇所を固定します。(BOX板金は壁側に傾かない事)
(クリップは現場加工)



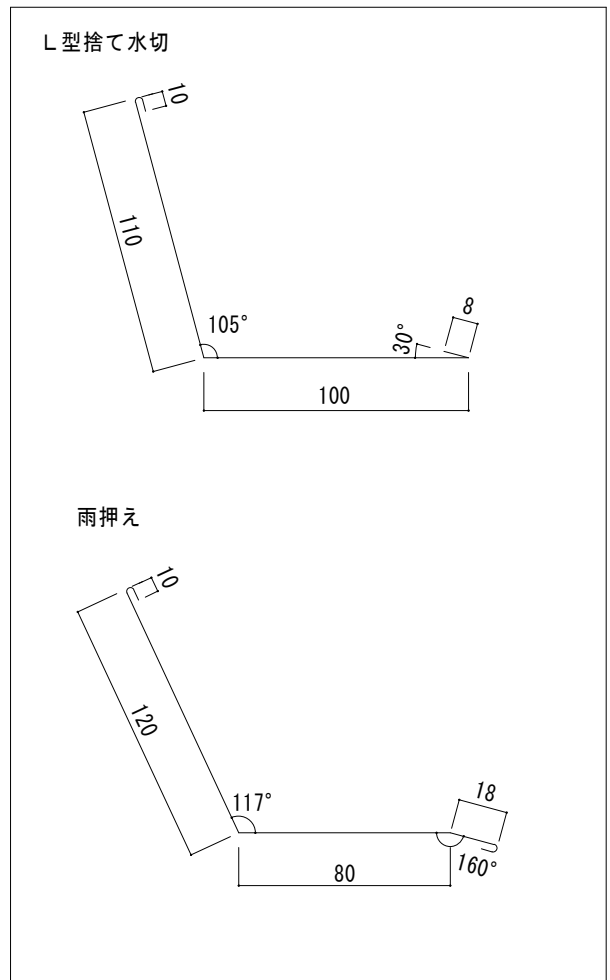
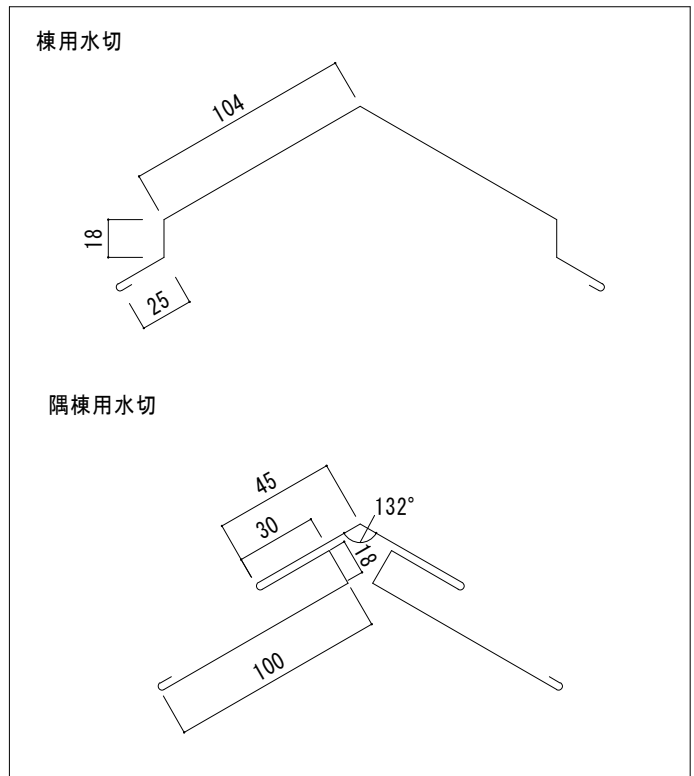
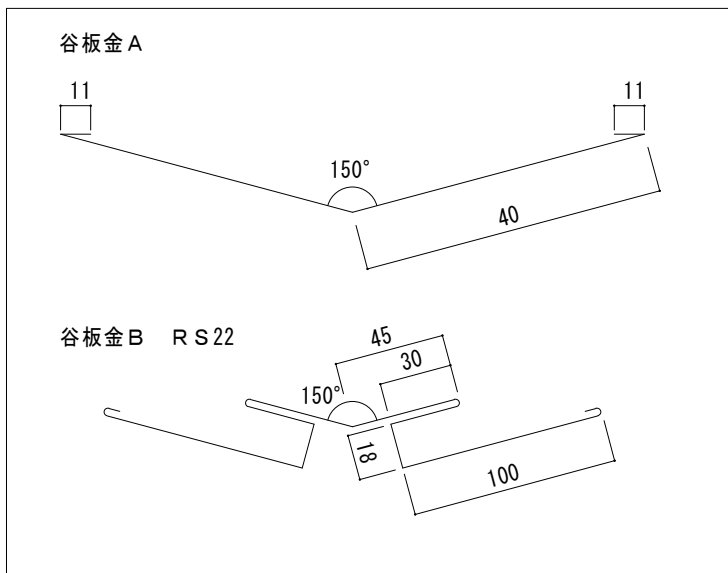
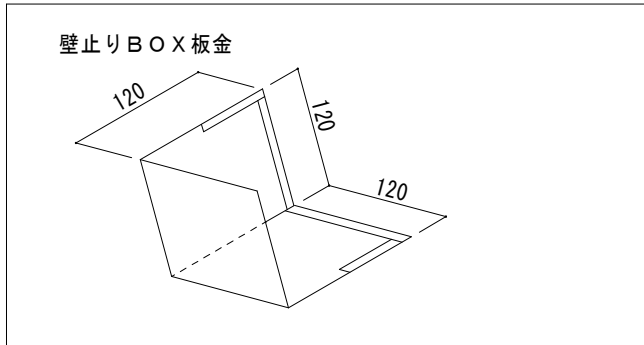
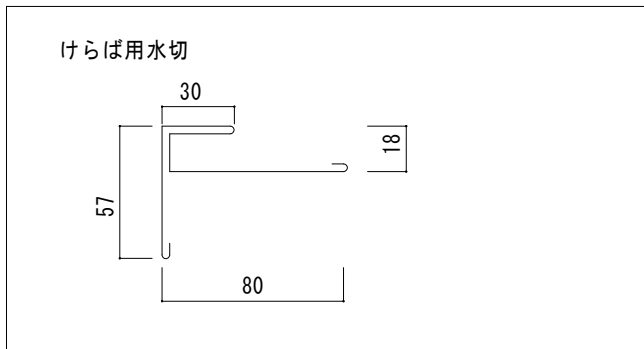
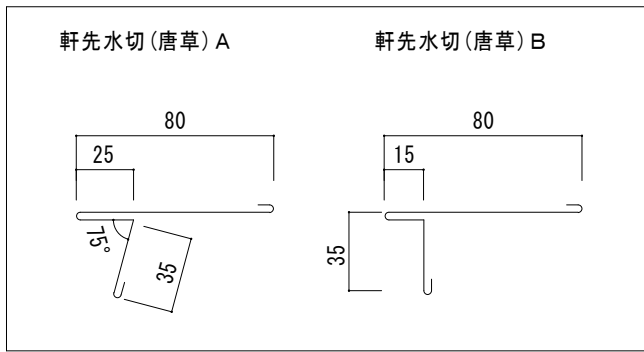
- (3) BOX板金を取付けた後、捨て板水切りを取り付けます。



- (4) 釘頭及び水切りの端部はシングルセメントでシールします。



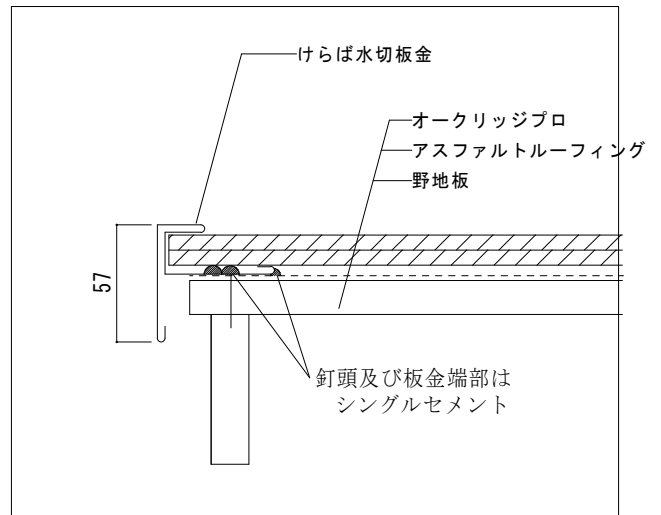
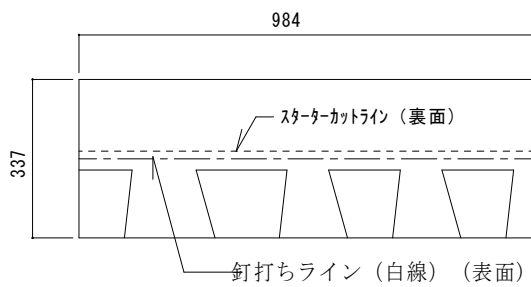
<3-4>参考水切り 板金



<5>本体の施工

けらば部断面

「オークリッジプロ30」寸法図



<5-1>基本事項

- (1) 本体をカットしてスターと各段の貼り始め部を作ります。

(参照)

(注) カットする際は必ず本体の裏面から定規をあてて、カッターの刃を入れて下さい。(表面から切るときれいに切れません)

また本体裏面に付いているテープは梱包のなかで接着しないように入っている「養生テープ」ですので、剥がす必要はありません。

そのままにして葺いて下さい。

- (2) 軒先部では軒先板金の先端より5mm程シングルが出るようにします。

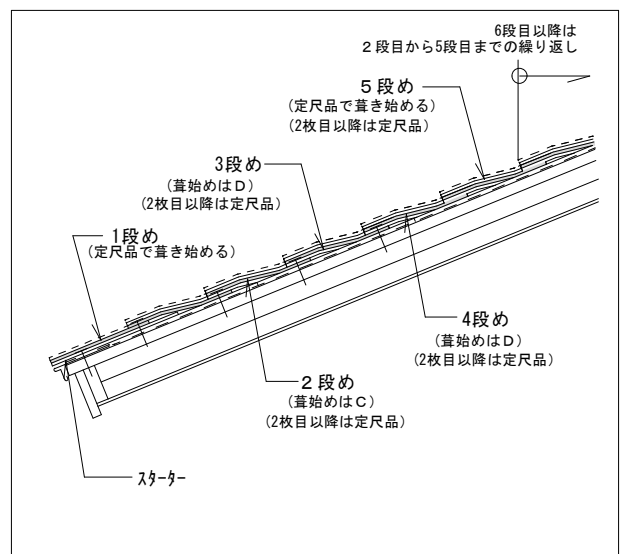
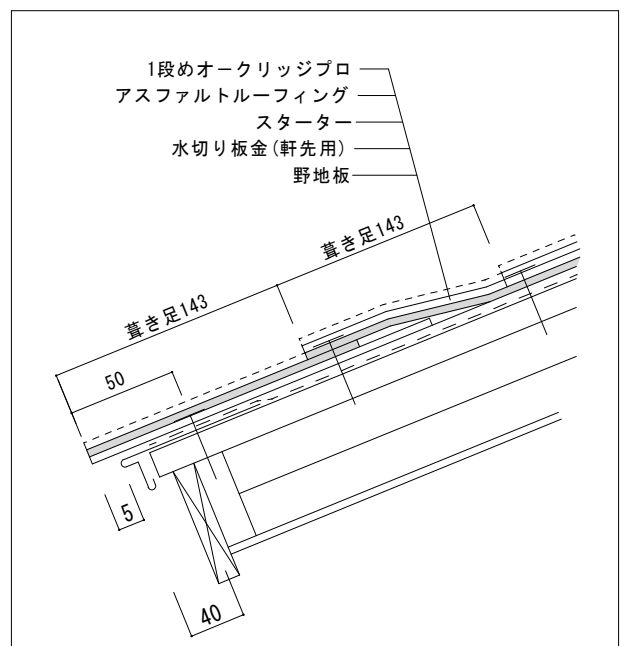
- (3) 貼り始めの加工は左から葺き始める場合は、本体の左側をカットします。

またカット寸法は165mmづつ、ずれていくことを原則にしていますが楯型部分の幅が25mm未満になる場合は本体の長さを調整して下さい。

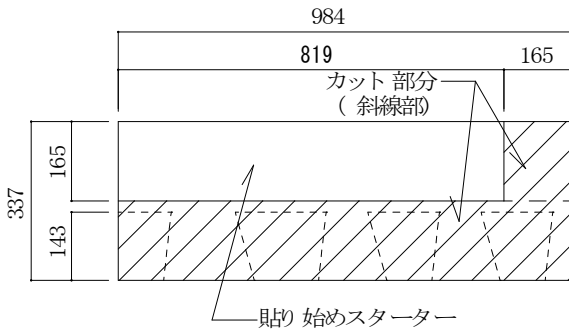
- (4) 強風地域では、釘の本数を6本/枚にして下さい。

- (5)

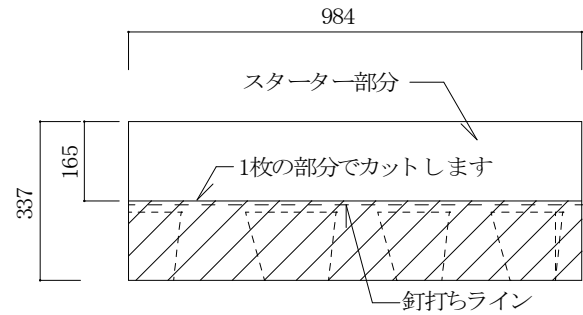
冬季または気温が低い場合ヒップアンドリッジを無理に曲げると割れる可能性がありますので、その場合はトーチで暖めるか温度が高くなってから施工して下さい



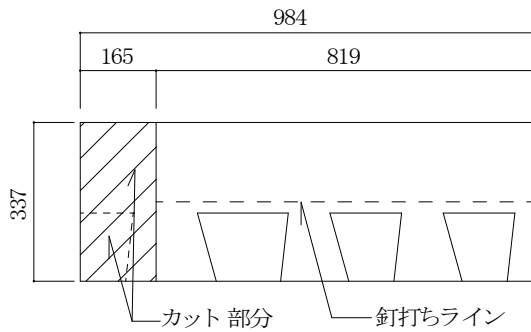
① スターター貼り 始め



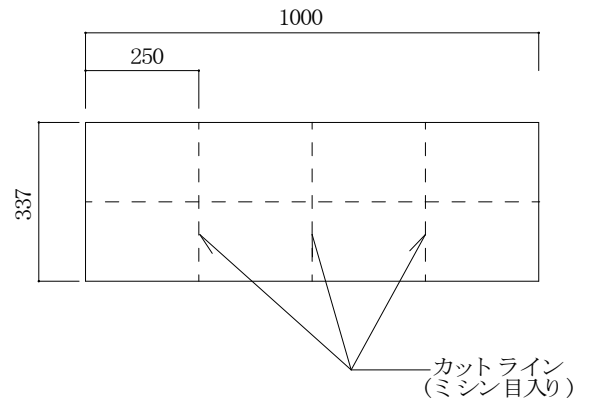
② スターター2枚目以降



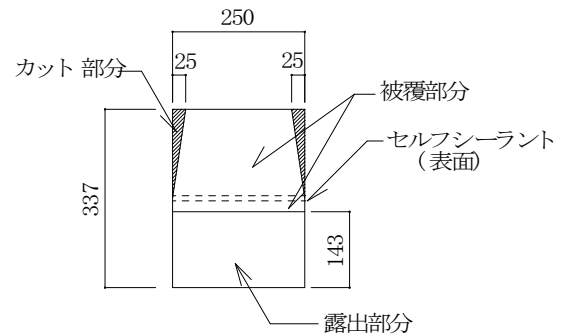
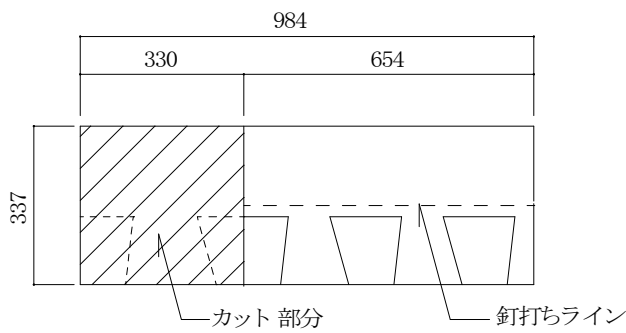
③ 2段目貼り 始め



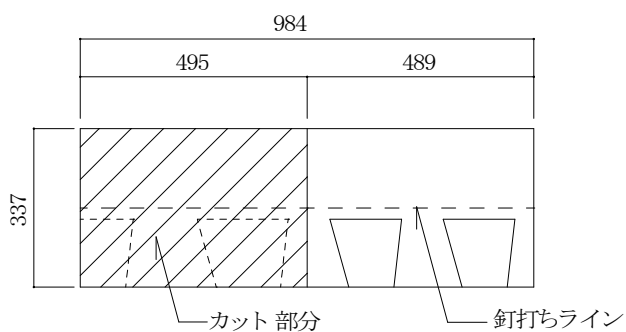
●ヒップアンドリッジ(棟用役物)



④ 3段目貼り 始め



⑤ 4段目貼り 始め



(1) 1段目の本体貼り 始めは定尺物を使います。

(2) ヒップアンドリッジは1シートから4枚取れます、上図のように被覆部分の端を切り取り 台形状にして下さい。

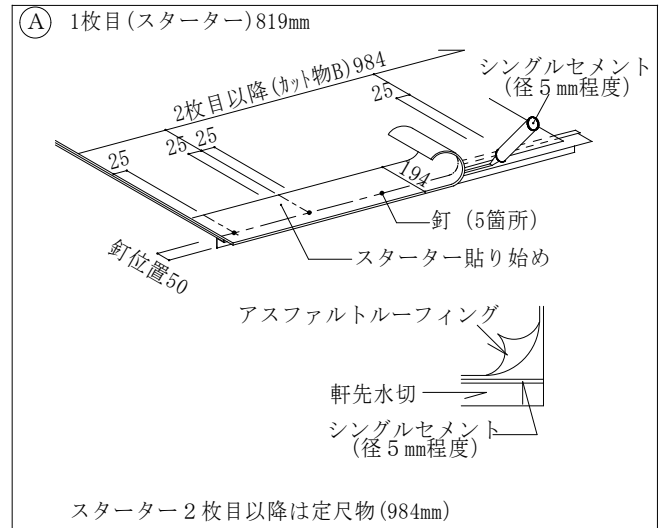
(3) スターターを切り取った残りの部分は棟頂上で使える場合がありますので取っておいて下さい。

<5-2>オークリ ッジプロの施工

① スターターの施工

- (1) 軒先板金の上にシングルセメントを直径5mm程度の量で右図の位置に施工します。
- (2) スターターは屋根の軒先に沿って下地の上に施工します。
貼り始めスターターAをケラノから葺き始め
2枚めからは全て定尺品で葺きます。
- (3) スターターは軒先板金より5mm程度出して葺きます、
両端から25mm程度そして軒先から50mm程度離れた場所に釘を打ちます、次に両端に打った釘より等間隔に3本の釘を水平に打ちます。
- (4) 釘はセルフシーラントの上に打たないよう注意して下さい。

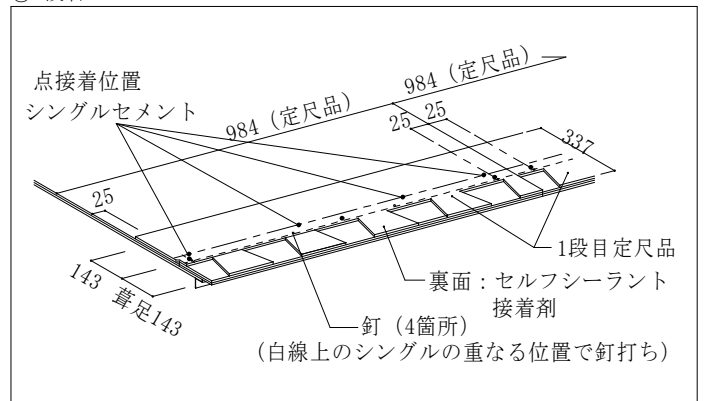
① スターター



② 1段目の施工

- (1) 1段目は全て定尺品でスターターの面(出)に合わせて葺きます。
- (2) 水平方向ではシングルを突き付て葺きますが、詰めすぎないように注意します。釘打ちの施工要領に従いシングルを葺きます。
- (3) 釘は必ず釘打ちラインに打ち、下の段のシングルと重ねて打ちます。
- (4) シングルセメントは右図のように1枚に突き3箇所(直径2~3cm)点付して下さい。

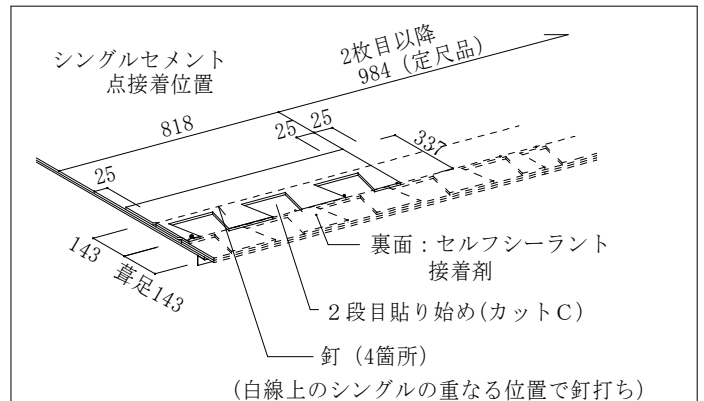
② 1段目



③ 2段目の施工

- (1) 2段目のシングルの先端が1段目の節目の上部水平線と合うように、露出部143mmを確保して葺きます。
- (2) 165mmカットしたシングルから葺き始めます。(図C参照)
- (3) 2枚目からは定尺品で2段目を葺きます。墨出し線をガイド線として軒先に平行になるように葺きます。
- (4) 釘打ちは施工要領に従います。葺き終わり部でケラノからはみ出るシングルをカットします。

③ 3段目

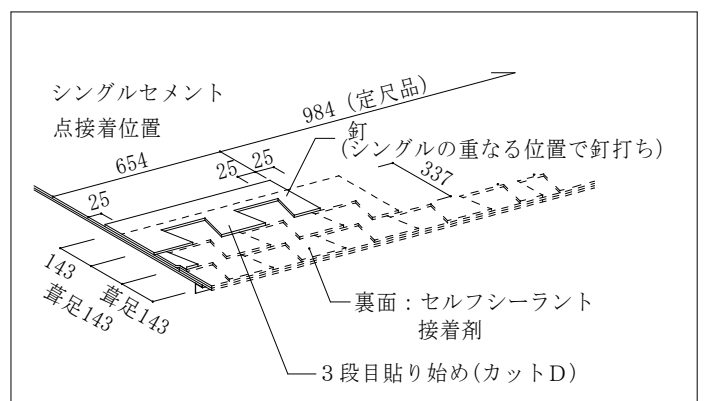


④ 3段目・4段目の施工

- (1) 3段目の葺き始めはD(図参照)を使い

⑤ 5段目以降の施工

5段目は定尺で葺き始め6段目からは上記2段~5段の施工の繰り返しとなります。

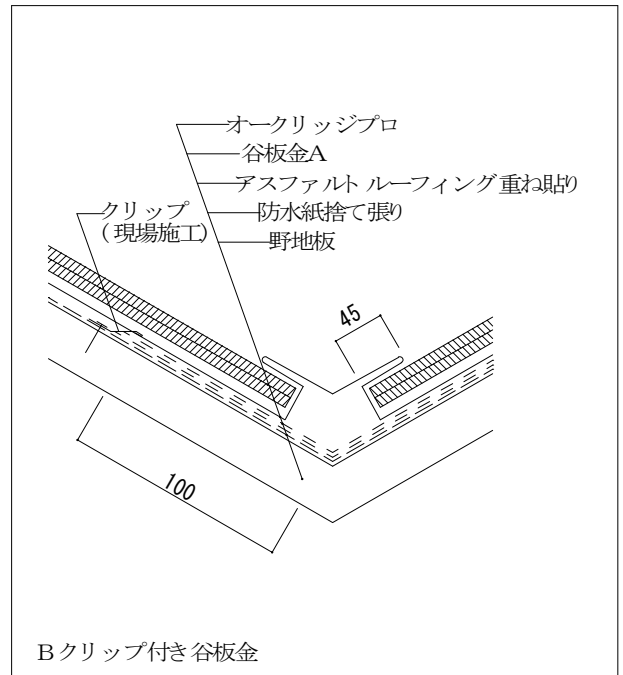
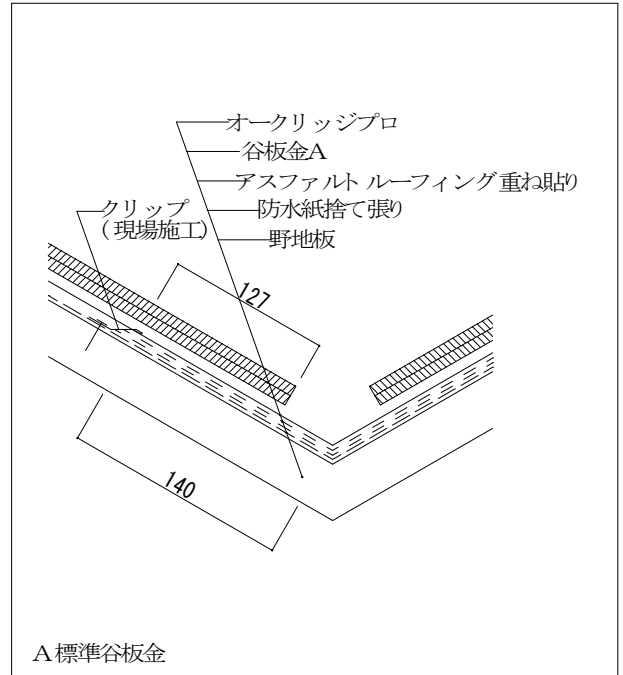


〈5-3〉谷部の施工

谷部は板金を使う方法とシングルと同質部材である
ミネラルサーフェイスロール（MSR）を使う方法があります。

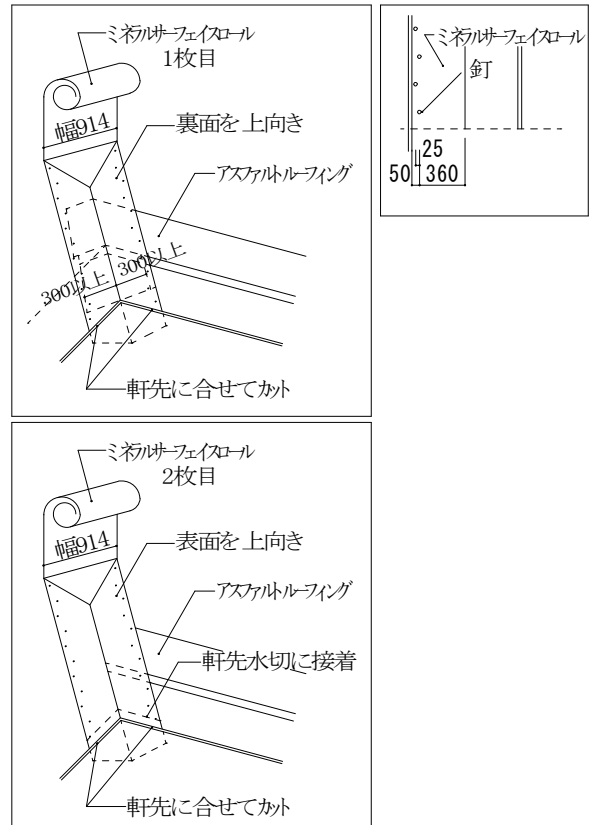
(A) 板金（A，B）を使用する場合

- (1) 谷板金をアスファルトルーフィングを敷いた上に施工します
- (2) 谷板金は最低0.35mm厚の亜鉛メッキ板あるいは同等の防食防錆処理した板金で施工します。
- (3) 谷板金を谷の中心に設置し、クリップで固定します。
- (4) 雨押さえを繋いで谷を施工する場合は、下の部分の上に次の雨押さえを重ね、重ねは300mm以上になる様こします。
繋ぎ目はアスファルトプラスチックセメント等でシールし
繋ぎ目の上部に釘を止め、釘が隠れるようにします。
- (5) 施工の簡素化と熱による伸縮を防ぐ為、谷板金は1枚につき4 m以下になるように注意します。
- (6) シングルを施工する前に、谷の全長に沿って谷の中心から両側に墨出し線を引きます。（墨出し参照）
- (7) 谷板金の下部は軒先水切りに被せて折り曲げ接続します



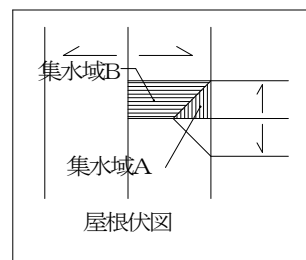
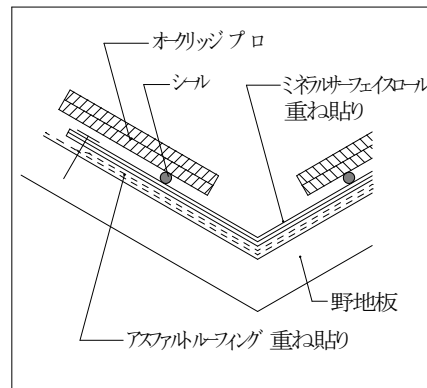
(B) ミネラル・サーフェイス・ロールを板金代わりに使う場合

- (1) 先に敷いたアスファルトルーフィング上に
ミネラル・サーフェイス・ロールを敷きます。
この時にミネラル・サーフェイス・ロールの裏面が上向きになるよう
谷の中心に敷き、軒先部になる最下部を軒先のスターターに沿って
カットします。
- (2) ミネラル・サーフェイス・ロールは釘で固定します、
釘の位置は谷の中心より360mm以上離します
釘はロールの縁より25mmから50mm程度離して千鳥になるように打ちます
ミネラル・サーフェイス・ロールを押さえながら密着させて釘打ちます
つぐ必要が有る場合、重ねは300mm以上とります。重ね目をシングル
セメントで接着し、傾斜上部の釘頭部をシングルセメントで塗ります。
- (3) 次にもう1層の914mmミネラル・サーフェイス・ロールを今度は表の面
を上にして重ねてしきます。
- (4) 最下部は軒先の水切り板に被せて、見栄えよく折り曲げて固定します。
一層目と同様に釘でミネラル・サーフェイス・ロールを芯をそろえて
固定します。
- (5) 継目も同様に300mm以上重ねシングルセメントで接着し、上側の
ロールの下部に釘が隠れるようにします。

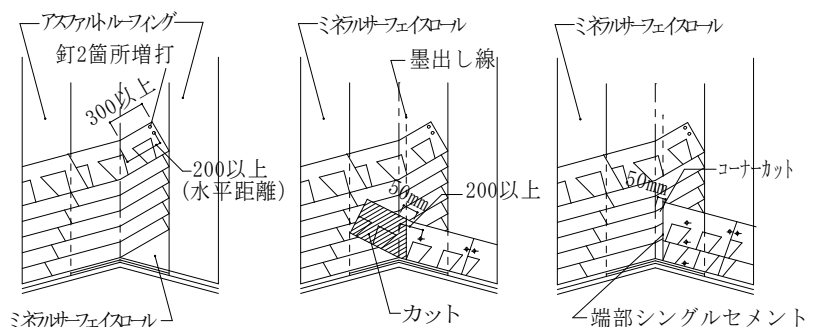


(C) シングルを使って施工する場合

- (1) 谷の両側とも同じ勾配であれば、集水の逆流を防ぐ為集水域の小さい方(集水域A) から噴き始めます。
- (2) まずミネラル・サーフェイス・ロールをアスファルトルーフィングの上に谷を芯々にして敷きます。谷板金及び下地が谷によく馴染むよう接着します。
- (3) 軒に沿って葺いてきたシングルが谷をまたぐように葺き、谷の反対側に最低でも300mm以上掛かるようにします。
この谷をまたぐシングルが谷をカバーするには不十分な長さの場合には谷から手前の所でこのシングルをカットして、新しいフルシングルをカットした場所より谷を越えるように葺きます。
- (4) 順次同様にシングルを棟に向かって葺いていき、谷に馴染むように上から押さえつけるように施工していきます。
- (5) この時、谷の中心から200mm以内の釘打ちは厳禁
最端部は図で示すよう2ヶ所を増し打ちします。
- (6) 次に反対側のシングルを葺く前に、谷を越えて葺いてあるシングルの上に、谷の中心線の位置に墨出し線を引きはす。
- (7) 反対側のシングル墨出し線を越えるように葺き、墨出し線に沿って上にかぶせシングルをカットします。



- (8) この時、下のシングルまでカットしないよう注意して下さい。
- (9) また釘は谷の中心から200mm以上離して止めます。
- (10) カットしたシングルの端部はシングルセメントで接着します。

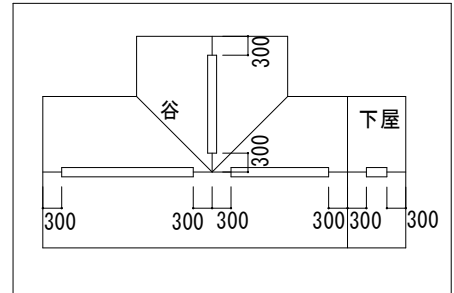


<5-4>棟部の施工

換気棟は板金または弊社の「リッジロール」を使う方法があります。

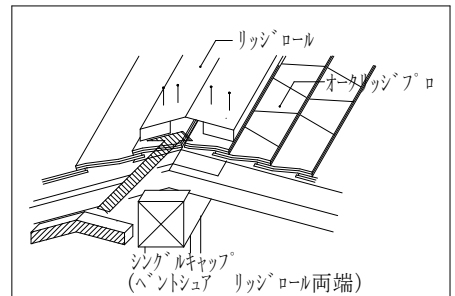
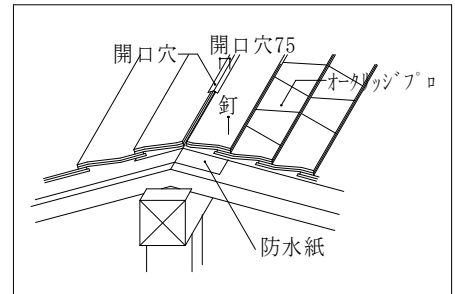
(注)・換気の不良は湿気を蓄積させ、野地の裏面で結露の原因となる。正しい換気は屋根の寿命を最大限に延ばし、冷暖房の効果を高めます。

- ・天井面積に対して1/150以上の有効換気開口を推奨いたします
屋根の軒先から棟までの間が均等に換気されるように考慮して配置して下さい。
- ・上記の基準を満たさない場合は、更に屋根換気を取り付けて下さい。
- ・棟に溝を切ります、溝は棟の一方の端から300mmの箇所から反対の端から300mmの所まで切ります。



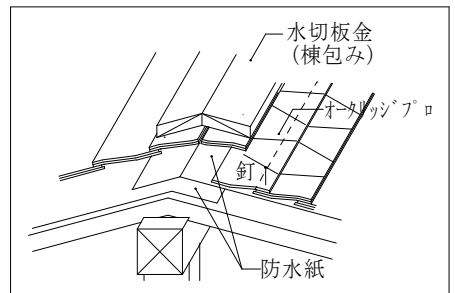
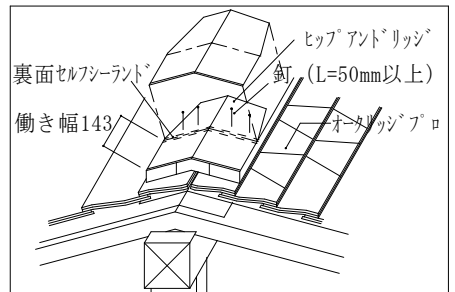
① オークリッジの取り付け(リッジロールを使う場合)

- (1) 棟に幅75mmの溝を切ります、この溝は棟の一方の端から300mmの箇所から反対側の端から300mmの所まで切ります、棟の両端にシングルキャップを釘で止めます。
- (2) リッジロールを解き、端を最低4本の釘で止めます。リッジロールを反対側へキッチリと押さえ付けながら端を釘1本で仮止めます。最後まで釘を打ち込まない事、反対側の端までリッジロールを敷き終えるまでやり直す可能性があります。リッジロールを解きながら300mmピッチの千鳥で釘打ちをします、釘は最低でも19mm貫通させます。
*釘は50mm以上のものを使います



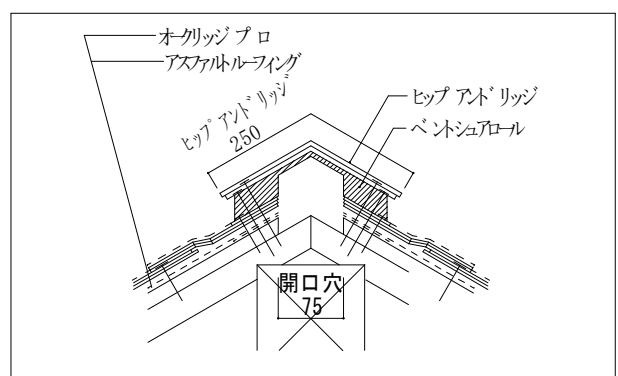
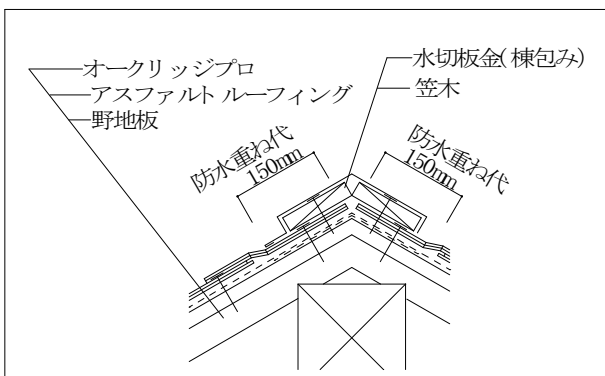
② ヒップリッジ(仕上げ役物) の取り付け

- (1) 軒先から棟までシングルを葺き上げた後、250mm x 337mm にカットしたヒップリッジを棟の中心に合せて釘止めます。
- (2) 次からのヒップアンドリッジは働き幅143mmで葺いていきます
*風下側から風上側へ葺き上げていきます。
(現場の風向きを考慮して下さい)



③ 板金を使う場合

- (1) 棟の最上部のオークリッジプロは棟の最上部でカットします
- (2) 最上部のオークリッジプロの上に笠木を釘で打ち。
棟包み板金で仕上げます。

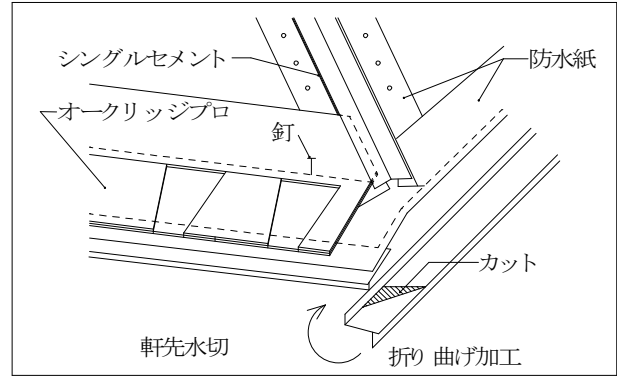
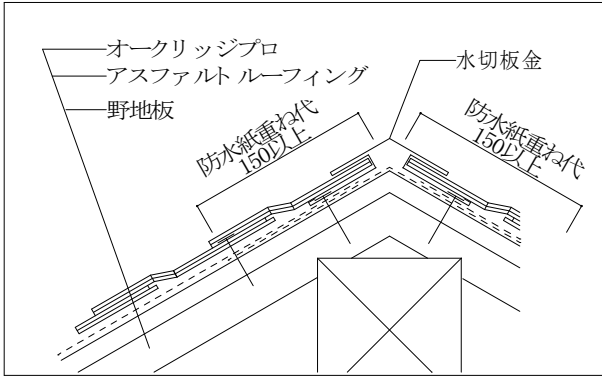


<5-5>隅棟の施工

① 板金仕上げ

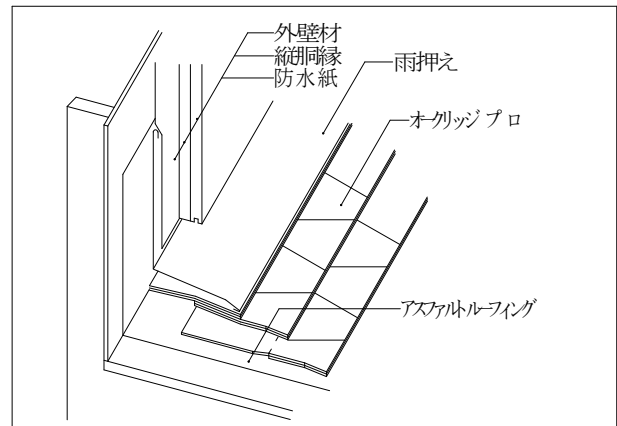
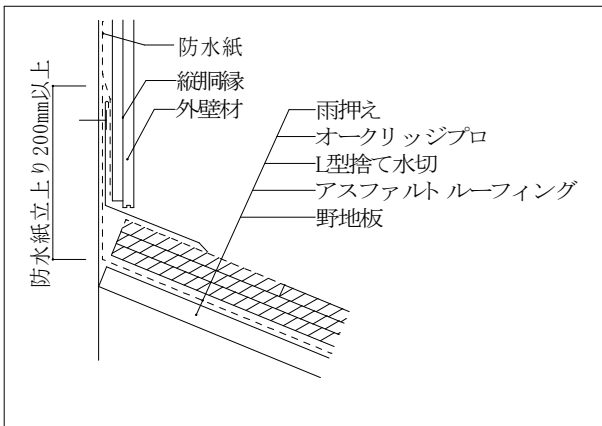
- (1) 隅棟のオークリッジプロは板金(棟用)に納まるようコーナーカットをします。
- (2) 軒先水切りは片側をコーナーで折り曲げ加工をし、もう片方に50mm以上かぶせかす。
- (3) 棟用水切り板金は軒先水切りの上にかぶせ、折り曲げ加工をします

② ヒップアンドリッジ仕上げ



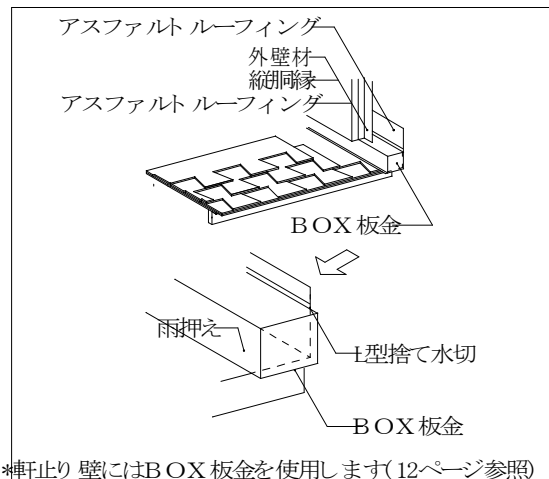
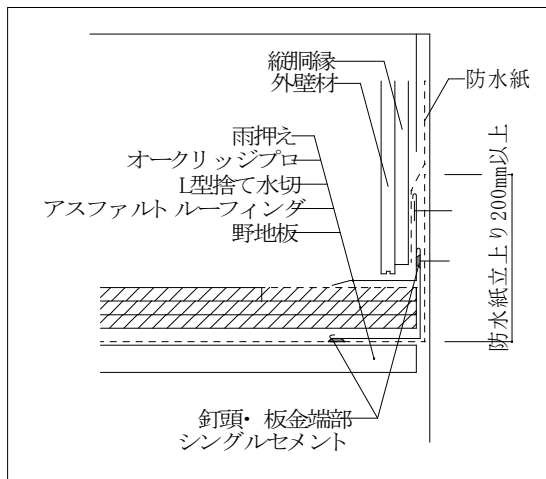
<5-6>壁取り 合い部

- (1) 最上部のシングルを施工した後に雨押さえを取り付け、壁側の防水紙を雨押さえの上からかぶせるようにします。



<5-7>軒止り 壁取り 合い部

- (1) シングルを施工した後に雨押さえを取り付け、壁側の防水紙を雨押さえの上からかぶせるようにします。
- (2) 雨押さえの軒先側は折り曲げ加工をしてシングルにかぶせます。



*軒止り 壁にはBOX板金を使用します(12ページ参照)